



To Club Presidents and Secretaries in DISTRICT 2790

ガバナー一月信



2008-09

2009年1月号
発行/2009年1月1日
COPY FOR MEMBERS

ロータリー理解推進月間

出席してためになる例会

No one can attend Rotary club meetings with the necessary regularity without finding his life enriched by the friendly contacts, and his mental and moral outlook improved by the cultural programs presented.

親愛の情に満ちた友人との出会いと、精神的道徳的高揚をもたらす教養プログラムがあり、それによって自分の人生が豊かになる、というのでなければ、誰が毎回のクラブ例会に必ず規則正しく出席しようなどという気になるものか。

(佐藤千壽「ポール・ハリスの言葉」より)



“Make Dreams Real”

「新春の夢をかたちに」－理解推進月間

2008－09年度

第2790地区ガバナー 崎山 征雄

2790地区のロータリアンの皆様、新年あけましておめでとうございます。
皆様にとりまして、本年のロータリー年度が輝かしい年でありますよう祈念申し上げます。

【佐藤千壽氏のこと】

日本人であり国際人であった、佐藤千壽氏が2008年10月23日にドイツ・フランクフルトでご逝去されました。氏が熱い心でこれからのロータリーを想い、2760地区大会でR I会長代理として準備した講演原稿「他人の金で奉仕をするという虚構」が遺稿となりました。それをこの大会で本地区「土屋亮平パストガバナー」が代読しました。氏は佐藤千壽氏のロータリーへの熱い思いと未来への懸念を淡々と代読なされ、会場のロータリアン全員が感動の拍手の嵐であったと2760地区片山主水ガバナーがその感動を伝えてきました。

その全文を本誌に掲載致しました。

【山崎直子氏のこと】

新春早々我々の未来、財産である新世代が花開きました。国際親善奨学生初、日本人初のママさん宇宙飛行士、山崎直子さんの誕生です。現在アメリカ・テキサス州ヒューストンにて訓練中。2010年2月11日に打上げ予定のスペースシャトル「アトランティス」への搭乗と、建設中の国際宇宙ステーション (ISS) に滞在、各種実験に参加すべく準備中です。ISS は世界15ヵ国が協力して建設中の宇宙実験室、技術者としてハードの開発・試験に携わります。彼女は1993年東大航空学科卒業後、1994－95年度、2790地区、松戸中央RCから国際親善奨学生としてアメリカ・メリーランド州立大学に留学、1996年、東大航空宇宙工学専攻修士、以来 NASDA (宇宙機構) で研修を重ね、2001年宇宙飛行士として認定され、数々の研修を重ね、今回の快挙となったものです。

シャトルに搭乗する日本人は7人目、女性としては1994年に搭乗した向井千秋氏以来2人目となります。宇宙プロジェクトの現場で各国を巡り、人的貢献を重ね、地球を離れて客観的にみる地球が世界の未来を考え、つなぎ、貢献できる新世代の夢となることと考えます。その山崎直子さんの感じた事です。「国際人という人種はいない、世界に通用する日本人が、世界の人々が国際人と呼ば

れるのである」

今、当地区では彼女を、「ロータリー財団学友人道奉仕世界賞」に推薦しています。受賞すれば世界で一人の荣誉となります。そしてバーミンガム世界大会での受賞となることでしょう。その時は2790地区からはこぞってバーミンガムへ駆けつけてともにお祝いしようではありませんか。

このような事をおして、ロータリーを広く理解して頂き、新世代が我々の未来、財産であると同時に社会奉仕に国際奉仕に、財団に、米山に奉仕するその理念と実践の結果が社会の役に立つことです。

【ロータリー理解推進月間】

今月はロータリー理解推進月間であります。その目標は、会員に広く認識を深めてもらうことと、広く一般社会にロータリーをそのまま率直に知ってもらうということです。現在世界のロータリアンがR I会長の本年度テーマ「夢をかたちに」のもとに世界の各地で死んでゆく1日3万人の5歳未満の子供を助ける活動を展開していることを広く告知し自信を持って活動したいものです。

そのためのプログラムを具体的事例を持って分かりやすく実施し、単なる知識としてのロータリー活動の紹介で無く、地域と共に活動するロータリープログラムの実施活動が、地域への広報にもなるのです。

今月2790地区では毎日新聞に広く地域へのロータリーの紹介広告と共に、活動する83クラブの会長の顔写真と名前を、地域と共に奉仕活動を実施する代表と言う、メッセージとして紹介させて頂きました。

地に足のついた奉仕活動を、地域に、発展途上国に、新世代に広める努力が必要です。

【幻の金に踊った経済の虚構】

この一年、実体経済の需給バランスとは明らかに異なった、金融派生商品デリバティブ投機の破綻、サブプライムローンの破綻に始まり、3ヶ月前に全世界を覆ったリーマンブラザーズの金融破

綻という形で始まった世界恐慌が確実に日本にも広がってこようとしています。2001年1月 20ドルの原油が2008年6月 140ドル、2008年12月 40ドルと、昨今の原油の異常乱高下に象徴される、実体経済の需給バランスとは明らかに異なった異常経済が倒産件数の前年比18%アップ、自動車を始めとする輸出関連業種の大量解雇の拡大となって未だ経験のない経済状況となり世情不安をあおっています。「国家の品格」の著者 藤原雅彦氏によりますと、数百万で数億円の損得が発生するデリバティブ投機は権利の売買で貸借対照表には記載されず、発覚した瞬間には即アウト、1995年にイギリスの名門銀行「ベアリングズ」が28歳のトレーダーの失敗で倒産、1998年にはLTCM、2001年夏の格付「最優良」のアメリカのエンロンが12月に五兆円の負債を抱え倒産しました。2004年時点でデリバティブ残高は2万5千兆円（国際決済銀行発表）リスク率4%で1千兆円、銀行やヘッジファンドがデリバティブの主役ですから大規模デリバティブが一つでも破綻するとその瞬間に資金の流れが止まり、連鎖的に決済不能に陥る、それが今回の世界同時株安、経済不況と考えられます。

デリバティブは確率微分方程式という高等数学経済理論にのっとった論理の権化とさえいえるものですが、実体経済との乖離の前には時限核爆弾となり今、世界経済をメチャクチャにしました。資本主義の論理を追及して行った果ての金銭至上主義が破壊者になったのです。現在は1905年ロータリーが始まったシカゴのようなものかもしれません。

では我々ロータリアンはどうすれば良いのでしょうか。論理の徹底という人間の論理、理性には限界があるということを理解し、その本質を追究し、人間の五感に直接伝わる、実体のある経済活動を本物とする「四つのテスト」の持つ、企業倫理を忠実に実践することによりロータリアンの職業奉仕を確かなものにとらえ、四大奉仕を完遂することが、広く世界に目を向け我々のロータリー世界を完成させることが、100年に1度の金融危機を乗り越える力になると信じます。そして我々「日本人の和の心と武士道精神」で「ならぬことはならぬものです」とのスピリットで突き進むことと考えます。

新年のご挨拶

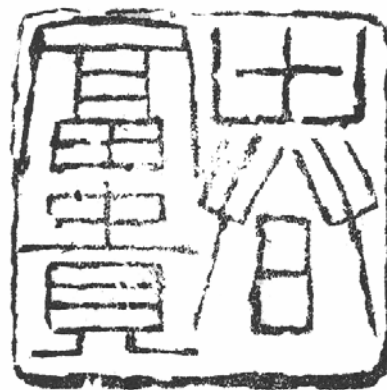
少年老い易く

パストガバナー 佐川 一元
(船橋南RC)



「少年老い易く、学成り難し」という朱子の名言がありますが、格言のなかで、こんなにおそろしい言葉はありません。もう老いてしまいましたし、学もとうとう成らなかつたわけですが、「一瞬の光陰を軽んじて」しまった後悔は、とりかえしがつきません。

また別の格言に曰く、「人生は短く、芸術は長し」と、某著名芸術家の個展をみましたが、学帽をかぶった少年時代の写真にも、きびしい視線を感じました。すべての人に時間は公平に与えられますが、これを有効に使ったかどうか、おそろしいことです。



パストガバナー 黒田 実
(茂原RC)

新年のご挨拶

パストガバナー 齊藤 博
(市原RC)



謹んで新年のお祝辞を申し上げます。

大阪は水の都、八百八橋と申しまして全部大阪商人の個々の財力によるもので、皆個人の名前が付いておりますが、中で人の名の付かない心齋橋と言うのがございます。江戸の中期、儒者中井甕庵が享保九年に大阪尼崎に「懐徳堂」という学校を作った。ここで学んだ大阪商人が、孔子の仁の道は貧富に関係なく存在する。先ず心を洗って来いよと言う件に感銘を受けて「心齋橋」と名づけたものだそうで、大阪商人の背景に流れて商業道徳の手本になっております。

ロータリー・クラブは例会で奉仕の心を磨き、大阪商人と同様に、地域社会においては倫理の提唱、商業道徳を提唱して行く。

本年も個々の運動を、着実に積み重ねて行きたいものと存じます。

新年の御挨拶

パストガバナー 石井亮太郎
(松戸東RC)



お健やかに新年をお迎えになられたこととお慶びを申し上げます

昨年来、アメリカに端を發した経済金融の危機的な状況が巻き起こり、今や世界的に影響が波及し共に危機感を共有する現実の真只中に置かれている現実を直視し、不況機にこそ機能し対応に適合すると云われているロータリー職業奉仕の理論を実践に徹してこそ、ロータリーを信奉する私達にとって求められる処ではないでしょうか。健康専一にロータリアン各位の一層の御健闘を心よりご祈念申し上げ年頭のご挨拶と致します。

初 夢

パストガバナー 土屋 亮平
(松戸RC)



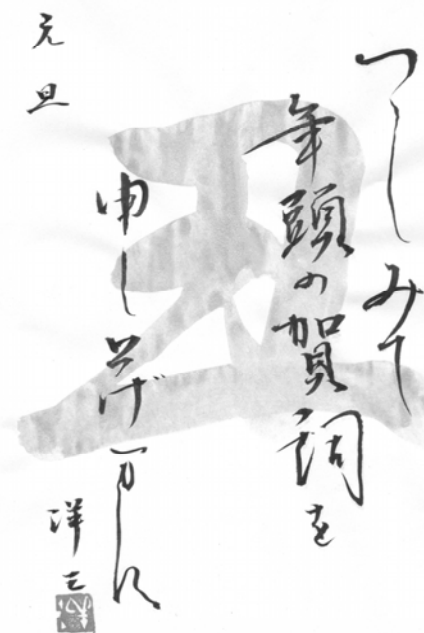
新年お目出度うございます。

ハロルド・トーマス扮する閻魔大王様の前に、舌を抜かれ頭を垂れた2人の姿を見ました。

1人はエドウィン・フタ、もう1人はウィリアム・ビル・サージェントとネームプレートは記されて居りました。

罪状は閻魔大王を「第1パラグラフをより良く書き改めることは、恐らくわれわれの中の誰一人としてこれをよくする者はあるまい」と言わしめたウィルR. メーィアー草案『決議23-34号』を冒瀆した罪。

パストガバナー 長島 洋三
(市川東RC)



「三方よしの経営」 を提唱

パストガバナー 平山 金吾
(成田RC)



米国発の世界不況、少数の人を長期間、多数の人を短期間誤魔化せても、多数の人を長期間騙すことは出来ないと言われます。マネーゲームで世界からお金を集め、最後には踏み倒してしまった米国流虚業に巻き込まれなかったと思いますが。我々ロータリアンは嘗て恐慌の時にもロータリアン企業は一社たりとも倒産しなかったと言われています。このような時期こそ「四つのテスト」を実践して、企業経営をしっかりと行って行きたい。日本でも近江商人が実践していた「三方よし」即ち、自分よし、相手よし、世間よしを実践してこの不況を乗り越えて行きたいものです。「始末、算用、才覚」「陰徳」も大切です。ロータリー財団も米山も本来は名前を伏せての寄付で陰徳を積むのが理想ですが、現実はそのいきませんが、気持ちの上では陰徳を積み天からのご褒美を頂きましょう。

年頭のご挨拶

パストガバナー 秋元 秀夫
(君津RC)

新年おめでとうございます

皆様方にもよきお正月をお迎えの事とお慶び申し上げます。今年は大恐慌到来と言われます。幸い良き仲間達が多くいる事を誇りに健康と笑顔を大切に互いに頑張りましょう。



会議所会頭室にて

笑顔

パストガバナー 北原 敬市
(船橋東RC)

あら玉の年の初めを言祝ぎつつ、本年のご無事をお祈り申し上げます。

ロータリアンの皆様、ご家族の皆様“夢をかたち”のテーマを大切に。

永遠に輝くロータリーの益々の発展を心と心つないで、笑顔のご活躍を期待致します。



(金婚を迎えて)

年頭に当たって

パストガバナー 鈴木 雅博
(市原中央RC)



謹んで新年のお慶び申し上げます。

又、併せて平素の御厚情御指導に心より感謝申し上げますお礼申し上げます。

一年の計は元旦に在りと申します。

歳の初めには様々に抱負を新しく致しますが、ロータリアンとして常に忘れず変わらず胸中にするのは、類い希なロータリーの高尚な思想を私自身の人生の標として会得すべく日々研鑽を重ねなければならないと云う想いであります。

特に今年度は地区新世代育成委員会のカウンセラーとしての立場を慮り、常に次代を担う若者達から信頼される人間としての思考や起ち居振舞をして行かねばならない事を心に銘じて居ります。

本年も変わらぬ御指導御厚情をお願い致します。

新春のご挨拶

パストガバナー 森島 庸吉
(船橋西RC)



明けましておめでとうございます。ロータリアンの皆様並びにご家族の皆様には益々ご健勝で明るい新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

昨年中は、皆様方の暖かいご指導とご交誼を賜り充実した年を過ごさせていただきました。深く感謝申し上げます。

「社会奉仕に関する1923年の声明」(決議23-34)は、引続き「手続き要覧」に掲載されることが李東建RI会長によって明言されました。(平成20年11月22日ロータリー研究会)

ロータリーから沢山の友人と生きがいを頂いている幸せに感謝の日々です。

新年に当たり、会員皆様ロータリー家族の皆様の益々のご隆昌ご多幸を心から祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。

新年に想う

パストガバナー 杉木 禧夫
(茂原RC)



年頭に際し、皆様様におかれましては、ご多幸年となります様衷心よりご祈念申し上げます。

昨年は、地球規模での百年に一度の経済危機に遭遇し、資本主義社会を揺るがす歴史的転換の時代に入ったとの識者も現れ、特に経済面では格差社会と地域間格差を生み、その拡大が顕著になりました。懸念される事は、人心の荒廃による信頼や連帯への感覚が喪失してしまう事です。閉塞感深まる実社会の一面では、すでに自己中心的な思考、行動が生まれ、挙げ句は理由なき犯罪の多発で社会不安を助長しております。

このような時代こそ、社会の一隅で、ロータリアンである我々だからこそ出来る活動、“夢をかたちに”を実践、行動する事こそ肝要と考えます。



奉仕と祈り

パストガバナー 増田 豁
(千葉中央RC)



全て神の業は永遠に不変であり、付け加えることも取り除くことも許されない。神を畏れその戒めを守れ。(旧約聖書・コレヘトの言葉)。

私は数年前からこの一節を朝の祈りとして読誦している。奉仕とは“役に立つ (Usefulness)”ことであるとロータリーで教えられてきたが、神の定める運命に従い戒めを守って医療に従事してゆくつもりである。

2009年新年の御挨拶

パストガバナー 山中 義忠
(船橋南RC)



明けましてお目出とうございます。

今大変な、益々のロータリー精神即ち超我の奉仕が、必要となる新年が始まりました。

我々ロータリアンは、社会の少なくとも堅実な指導者として、経済的、経営的にも、また職業倫理的にも、この不況に対する解決策を、家族、会員、友人、又社員、被相談者に、与えねばなりません。

超我は愛、その奉仕は実践であります。策は、金銭ではありません。その奉仕が成功すれば、得る物は平和であります。ロータリアン皆様の奮闘を祝いましょう。

謹賀新年

パストガバナー 白鳥 政孝
(市原RC)



昨年中はいろいろお世話になりました
心よりお礼申し上げます

価値観の多様性を容認しない頑迷さがテ
ロ・紛争を惹き起こし 倫理観なき強欲が金
融危機を招いて世界は混迷を深めています

善意のもとに寛容と倫理を重んじるロー
タリーの思想を世界中に広める夢を持ちたい
と思います

「夢をかたちに」

皆様の事業のご繁栄とご健勝をお祈りいた
します

今年もどうぞよろしく願い申し上げます

拡大から持続へ

ガバナーノミニー 織田 吉郎
(銚子RC)



あけましておめでとうございます。

わが国で起こっている問題現象を分析してその
発生原因を探っていくうちに、それは私達が飢
餓から解放された時代を生き延び、危機圧力の
働かない社会に迷い込んでしまったからではな
いかと考え始めました。今人類500万年全史を
覆すパラダイムの大転換期に突入したといっ
てよいのでしょうか。これから構築される新
たな認識は「もの離れ、組織離れ」をキーワ
ードに、あらゆる場面で拡大志向から持続志
向へと転換してゆくことになるのではないで
しょうか。日本のロータリークラブもこの潮
流の中で、組織の「拡大」というよりむしろ
「持続」を真剣に考えねばならない段階に
入ったと考えています。

Change & Create

ガバナーエレクト 中村 博亘
(柏西RC)



明けましておめでとうございます。皆様にはご
家族お揃いで清々しい年をお迎えのこととお喜
び申し上げます。昨年中はご指導ご鞭撻を頂き有
難う御座いました。

昨年からの世界的な金融不況の影響は、地域社
会にもいろいろな影響をもたらしております。
今、まさに変革の時代と云っても過言ではありま
せん。ロータリーも同様、変革の時期に入りました。
ポール・ハリスは「この世界は常に変遷する、
我々は変遷する世界と共に変遷する用意がなけ
ればならない。ロータリーの物語は、幾度も幾度
も書換えられなければならないであろう」と申し
ております。地区ならびに各クラブの活性化のた
めに、本年は思い切った改革を行うべきだと考え
ます。変革には大変な困難を伴いますが、丑のよ
うに、歩みは遅くとも、一步一步、確実に進みたい
と思います。

丑には「掴む」という意味があるそうですが、
皆様と共に「ロータリーの夢」を掴み取る年にし
たいと思います。ご協力をお願いいたします。
“Make Dreams Real”



第10回 日韓親善会議のご案内

第2790地区日韓親善会議委員
増田 豁

記

【日時】

2009年(平成21年)9月4日(金)・5日(土)

【会場】

ハイアットグランドホテル・ソウル(ソウル市)

【登録料】

未定

【参加予定数】

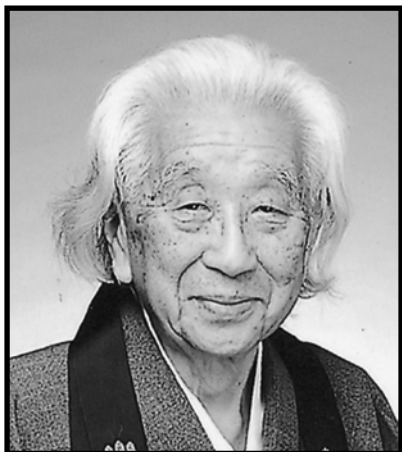
韓国側 700名 日本側 300名

【備考】

詳細は決まり次第ご案内します。

『他人の金で奉仕をするという虚構』(佐藤 千壽 氏 遺稿)

第2760地区 地区大会 (2008年11月15日) 講演
「ガバナー月信12月号」より転載



講演をお願いしていた佐藤千壽氏は、10月23日に急性肺炎のため、ドイツ・フランクフルトでご逝去されました。
今回の講演のために佐藤氏が準備された原稿を、松戸RCの土屋亮平パストガバナーが代読しました。

土屋パストガバナーは、佐藤氏の弟子であり、
万一の際にはこれを読むようにと渡されたのが、
今回の講演原稿でした。



片山圭水ガバナー(左)、土屋亮平パストガバナー(右)



講師 土屋亮平パストガバナー(松戸RC)

【奉仕の意味】「報酬無しでプロの仕事をしてもらうことは期待出来ない」とビル・ゲイツは言ったそうだが、Professional とは本来そういうものである。プロとは自分の技倆を金で売れる専門職のことだから当然報酬を払わなければならぬ—本人が金を受取るか受取らぬかは別問題として—。然し社会生活に於て我々が現実に Work=働く=のは何も報酬が得られる仕事ばかりではない。家事労働などその代表的なもので、本来それ自体が生活の一部なのだ。生き甲斐というのは金を得ることだけではあるまい。金は単なる生活のための手段であって、一家の生活を支える必要経費に過ぎない。生き甲斐は、社会が自分を必要としている、自分の存在が社会的に高く評価される、という充足感だろう。だから一応生活が出来る限り、報酬

の多寡を度外視して一所懸命働く人が沢山居る。その極まるどころがボランティア Volunteer であって、無償どころか、逆に自分の金を注ぎこんだりもする。典型的な社会還元である。それだから社会的に一層高く評価され尊敬もされる。これが真の意味の奉仕だろう。

奉仕(サービス)という言葉は商売上屢々値引きや安売の意味に使われるが、本来 Service というのは「お務めを果たす」ということで、別に安売などではない。然し辞書を引いて Service という語句がどんな使われ方をしているか、その使用例の数々を追ってゆくと、同じ務めを果たすにしても、それは単なる Work という労務提供ではない、かなり高次の精神的意味合を含んでいると解る。試みに研究社の英和大辞典を繰ってみよう。—(1)

務め、奉公、とあり、次に(2)神に仕えること、礼拝、(3)礼拝式文中に歌われる部分の楽曲、とあって、それから勤務、任務、軍務、志願兵役……などと続き、(6)貢献、奉仕……と出ている。

そこで次に Servant の方を見ると、(1)召使い、(2)家来、一身を捧げた人、(3)公務員、公僕、官吏……と出てくる。

英語の Service の語源が何処にあるのか、まだそこまでは調べていないが、これで一応日本人が英語の Service をどう解釈すべきか解って頂けると思う。ロータリーで奉仕という訳語が良いか悪いか議論する人も居るけれど私はやはり奉仕が適語だと思う—つまり「仕え奉る」のであって、「献身＝自己犠牲」に通ずる。そうだとすれば、ロータリーに於ける奉仕が何を意味するか自ずから分かってくる—先ずロータリークラブの会員は会員個人個人であって自分が勤務する会社やまたその業界ではない。次に会員になるということはあくまでもその本人自身の人間形成が目的で、謂わば学校に入る様なものである。だからロータリーは職業人の為の成人教室とも言われている。会費は授業料なのだ。従って例会や色々の行事に出席する為の時間も費用もすべて自己負担すべき道理である。ただその人のロータリー活動が、巡り巡って会社の為にもなるという判断でこれに要する費用を会社が補填してくれるかも知れないが、それは別の次元の問題で、ロータリーという組織の関与する問題ではない。それぞれ国によって税制も違うし、またそれぞれの会社の取締役会が独自に判断する問題でもある。日本の税制では会社の規模にもよるが一定限度までは交際費として経費処理が認められている。然しロータリーとしてはそれはあくまでも会員個人の出費であって、会社が負担すべきものとは考えていない。入会後の活動費についても同様である。

ところでロータリーという組織の単位はクラブであり、またガバナーが統括する適正なクラブ数をまとめて地区が編成されているので、それぞれその組織として事務処理に要する経費が発生する。それがクラブ会費であり地区費である。然しそれはあくまでも事務費であって、奉仕活動に要する費用はそれに献身奉仕出来る人が、それぞれの力量に応じて自分で負担すべきものだろう。ロータリーが「奉仕する会員個人の集まり」という鉄則に照らして考えれば当然そういうことにな

る。そうするとクラブなり、地区なり、団体として必要なのは事務処理の費用だけだからたいしたことはない。ところがロータリーの奉仕が個人奉仕ではなく団体奉仕に傾斜してくるに従ってどんどん必要資金が増加してゆく。そうすると、今度は民主主義だからと言って、全会員に均等に負荷がかかってくる。地区資金で言えばクラブ単位で均等に割当てられる。そうして遂にはそれぞれの活動に従事する役職者の労に酬いる費用というのまで発生する様になった。要するに顔の見えない他人の金で奉仕するということだ。その結果、安易に役職者の数が増やされてゆく、ということになるのである。役職という格好をつけた肩書のばら撒きである。ロータリーでは会員が減少しても逆に地区の役職者とその労に酬いる補助金が増えてゆく。民間の会社では考えられないことだ。然し R・I という本山がリーダーシッププランとか称してこれを奨励しているのだから、決してガバナーの罪ではない。R・I はこれで会員増強が出来ると考えているのだろうが、寧ろ事態は逆の方向に行くのではないかと思われる。

“Keep Rotary Simple”＝ロータリーは簡素に＝というテーマを掲げたのは1956～57年度 R・I 会長イタリア出身のジャン・ラング＝Gian Paolo Lang＝であった。それから18年後に私は358地区のガバナーに就任するのだが、その直前の地区年次大会ではまた改めて—〈ロータリーを簡素にする件〉—という決議が採択された。それを受けてガバナーに就任した私は一挙に地区委員の数を3分の2に減らした。それにも拘わらずその年度に会員は大巾に増加した。然し役職者の数はまた年度が変わるたびに増えてゆく—のだから始末が悪い。そして会員は減ってゆく……

その後1993～94年度 R・I 会長に就任したスイス出身のロバート・バース＝Robert R.Barth＝は「私は本年なにも新しいプロジェクトは提唱しない」前置して「今やロータリーはあまりにも情報が多すぎる。言論也多すぎる。活動のプロジェクトも多すぎる……それでいて逆に成果はあまりにも少なすぎる……」と破天荒なメッセージを送ってきた。—ラング会長とバース会長、二人は何れもヨーロッパ人で、このあたりに米欧その精神風土の違いが見えて大変興味深い。

然し経済大国アメリカの笠の下に居る日本では、ロータリーもまたエバンストン総本山の笠の

下で安易な道を選びたがるだろう。

「船頭多くして舟山へ登る」

自分の地区のことでまことに申訳ないが、ロータリーを愛するが故に敢えて私がガバナーになった年から今年までの地区組織概況をここに披露する—これはやはり天下の大勢で日本中何れの地区でも同じ様な悩みを抱えているのではないか。

国際ロータリー第2580地区 2008-2009年度 地区組織図 (左)、
国際ロータリー第2580地区 (元358地区) 逐年概況 (右)



後段で改めて効率的管理が可能な人数のことを述べるつもりだが、だいいち一人のガバナーが178人も地区委員と円滑なコミュニケーションが出来るものだろうか。独裁君主ならいざ知れず輩下の委員だって皆それぞれ一國一城の主である。委員会が二重三重の構造になっていたら何処に責任の所在があるのか分からなくなる。船頭多くして舟山へ登るだけで逆に情勢が混乱する……。そして経費の方だけが多くなってゆく—

話の糸口として50年も関与してきた身近なロータリーの話題を採り上げたが、これは単にロータリーだけの問題ではない。二十世紀民主主義、資本主義成熟の過程に於ける壮大な虚構の一つが、—〈他人(ひと)の金を集め、これを運用して儲けると共に、その罪滅ぼし奉仕もまた他人の金によってやる〉—という大芝居が見えてきたのである。これは単に金だけの問題ではない。その負の反面として道徳の崩壊、人間不信の社会不安が発生した—

【民主主義の落とし穴】二十世紀は資本主義経済興隆爛熟の百年であった。それは同時に米国34代大統領アイゼンハワー＝Eisenhower＝が慨嘆した様に、軍産複合による戦争動乱の世紀でもある。

言うまでもなく近代資本主義の起動力になったのが産業革命だが、これによって経済成長をはかることこそ経国済民の王道だという考えが国際的に広く受け容れられて、何れの国も競ってGNP、GDPの拡大に鎬を削って来たし、それはなおこれからも続いてゆくだろう。またこれを認知させる基本理念が万人平等の民主主義思想にあることは

言うまでもない。チャーチル＝Winston Churchill＝は「民主主義は最悪の政治だ。然し今のところこれに代る更に良い方法が見つからないからこれに従うだけだ」と言ったが、自由民主主義には大きな楯の両面がある。

万人平等という理念に基く行動規範は、当然言論の自由、起業の自由、競争の自由である。ところが、自由競争は優勝劣敗で、結果としてその本人の生活自体にも、またそれに基く競争力それ自体にも格差を生ずる。更にその格差がまた格差を増幅してゆくのである。何故なら百万円の金は一百万円の金の百倍以上の力を発揮するからだ—(深川純一P・Gの指摘は慧眼)。一方、この格差があまりに大きくなると社会不安を招くので、ここに福利厚生という美名を冠した福祉政策が導入されるのである。だから二十世紀は自由開放市場主義経済と公的私的慈善事業の世紀だったと言ってもよい。

慈善事業は言うまでも無く、資本主義以前古くから社会的に賞讃すべき善行として存在している。然しそれはあくまでも個人個人の善意によるもので、階層社会の基盤の上でそれぞれが分に応じて喜捨することによって成立っていた。ところが万人平等の自由競争、市場経済が想像を絶する様な巨大なものになり、それが国際的な格差増幅にまでなってくると、通常の市民による個人的善意などでは手が及ばなくなってしまふ。そこに生まれた鬼子が他人の金を集めて善行をする、という虚構である。然もこの虚構は公的国家的なものはもとより、民間組織であっても、一見建前はまことに立派であって申し分ない—だから虚構というのだが……

【巨大組織の危うさ】ミルトン・フリードマン＝Milton Friedman＝は、「近代福祉社会の虚構のひとつは善行が他人の金で出来るということだ」と前置して四つの金の使い方について次の様に述べている。時折私はこれを引用させて貰っているが、ミルトンの指摘は経済的側面からの論評で、ここでは心の問題について触れていないので、これを補足して各項目ごとに私見を述べてみたい—

- (1) 自分の金を自分のために使う時
(フリードマン…節約と効率の原理が働く)
(佐藤…使い道については多少恥ずかしいことがあっても良心にそむかぬ行動なら許される)

(2) 自分の金を他人のために使う時

(フリードマン…節約の原理は働くが、効率への配慮は薄くなる)

(佐藤…相手が犯罪人でない限り全く良心に痛みはないし、寧ろ誇りにして良い)

(3) 他人の金を自分のために使う時

(フリードマン…専ら効率を考えるが、節約への配慮は無い)

(佐藤…通常の人なら恥ずかしいし良心的にも痛みを覚える)

(4) 他人の金を他人のために使う時

(フリードマン…節約も効率も考えない)

(佐藤…虚栄心を増長させ、それにつれて良心も麻痺する)

以上の様な次第だが、この他人(ひと)の金を使う時の精神状態に於て(3)と(4)が連動すると自己顕示欲のみ肥大して結局犯罪行為にまで及ぶ危険がある。

但し、「他人(ひと)の金を他人(ひと)のために使う」にしても、少数の個人が金を集めて、これを誰かお互自分達の知っている人に託して使う、という場合には、金の出し手と受益者と受託者との関係が濃密である。お互に顔が見えている。だから何も問題は起こらない。

問題が発生するのは、そういう善行を志す人々の組織が大きくなり、顔の見えない仲間が主体性を持つ様になった時である。

組織が大きくなって金の流れが見えにくくなる程不祥事の発生も多くなるし、その規模も大きくなる。勿論そういう大組織ではそれなりに規則も作り情報も公開している。然し今度は情報という虚構も発生する一昔から三つの大嘘の一つとして「統計の嘘」が挙げられていることは皆さん御承知だろう。そしてこの情報統制の虚構は金の出し手と受け手とその運用組織との個人的関係が稀薄になるほど大きくなってゆくものである。

そもそも人間はお互に顔の見える相手との関係で初めて人間らしくあるという存在で、顔が見えなくなる程自己中心的になる。血液検査をすると、よく「善玉コレステロール」・「悪玉コレステロール」という話を聞かされるだろう。それと同じで、人間の心にも善玉と悪玉が存在する。もう皆さん健康診断で十分経験しているだろうが、この悪玉コレステロールは生活が豊かになればなる程増えてゆくものだから始末が悪い。そこに経済先進国の

繁栄に潜む壮大な虚構がある。

さて組織とは言うまでもなく人間の集団である。そしてこの集団組織を指揮統率する首領が居るが、その首領が独裁君主として終身君臨すると弊害が計り知れなくなるので、民主主義制度のもとでは選挙による交替制を採用している。然し一方、組織が大きければ大きいほど首領としての栄光も大きく輝くから、その当人にすれば当然の人情として自分の任期中更に一層組織を拡大したい。虚構であろうとなかろうと、体裁のいい立派な組織を作り、臭いものには蓋をして、立派な決算報告書を作りたい。どうせ限られた任期なのだからそういう花道を作って退任したい、ということになるだろう。然もこの大きな組織を維持運営するための必要経費は自分が払うわけではない。みんな自分の腹が痛まぬ他人(ひと)の金である。それどころか、大きく膨らませた経費の中には餘裕も出来る……こうして他人(ひと)の金で仕事をする者の落ち入り易い、善行-奉仕という虚構が発生するのである。

その虚構の最大のものが国連を頂点に戴く多くの国際組織だが、これはあまりに遠くて見えにくいので、また話をもとに戻して、今我々に一番身近な問題を少し拾ってみよう-

【経済至上主義の功罪】人は食べなければ生きてゆけない。そして生きてゆくために必要なカロリーは、年齢による差はあっても、万人平等である。そこで政治の第一目標は先ず国民の腹を満たすことだ-だから敗戦日本の戦後政府はあれこれ措置をこらして経済再建を計った。国民も乏しさを分かち合いながら必死に働いた。そして働けば働くに従って生活も豊かになってくるから青少年にも明日への希望があった。国政を担う政治家、官僚にもそれなりの使命感があったし、またそういう経済成長に伴って自身の生活も楽になり、その上統治者としての権威も栄誉も増幅して行った。だからそういう意味に於て経済至上主義は十分理に適うことだったので-但しその経済成長志向の根底に、統治者は無論のこと、国民にも道義を重しとする志があった。肝腎なのはこの志：精神の極性軸である。

ところがこうして経済的に豊かになって、安楽椅子に眠るようになってくると精神的極性軸が次第に摩耗してきて、官も民もただこの安楽椅子の

保全-それを支える自分達の城の強化拡大に志が傾いてくる……殊に権力を伴う政府組織では、必要経費のすべてが、強権を行使して安易に取立て出来る税金やその他諸々の賦課金によって賄われる。国民福祉のためと言っても、それは全く他人（ひと）の金でする善行=奉仕であって、「自分のために使う」という虚構から逃れられない。だから何れの官庁でも国益より省益優先で権限争奪戦、政治家にしても国益より党益、いや党益より派閥益なのだ。その上、これまた民主政治の善悪両面で致し方ないけれど、それぞれの担当者は任期も限られている。定年制もある。従って自分の任期中だけ大過なく格好良く過ごせば良いのだ。だから役人天国で何処の国でも役人の数は増えてゆくばかりで減らない。結局迷惑というより尻拭いの被害を受けるのは国民である。

今この日本で一番話題になっている問題は、なんとと言っても10万人を超す大世帯厚生労働省だろう。源流は戦時下国家総動員法によって生まれた厚生省で、そこから引継がれた公的年金-これを管理する社会保険庁のコンピューターに厚生年金記録の入力ミスが推計560万件もあって、それが未だに宙に浮いたままだという。一方日本敗戦後も国民の汗と油で経済復興、高度成長を遂げる過程で国民の醸出する年金も膨れ上って行った。然し年金は社会保障として国民の老後に備える預り金である。これを管理する者は将来の少子、高齢、人口減、成長鈍化ということまで想定して十分備えをすべき責任がある。ところが、預り金は他人（ひと）の金、その頃まで自分はこの椅子に座って居ない。そこでこの膨大な金を使って安易に厚生年金会館とか、そのほか各地に民間施設と競合する様な宿泊施設を作ったりした。福祉施設という美名を冠しているが結局自分達の為ではないか。それが今度はバブル経済が崩壊して重荷になっている。この厚生労働行政には、ほかにも薬害肝炎とか後期高齢者医療問題とか数々不祥事が山積している。

本来国民に奉仕する為の役所なのに、巨大化するに従って責任感が薄れて自己保身に傾く……だから厚生労働省ばかりではない、ほかにも事例に事欠かぬが、今一番話題になっているのが汚染米不正転売事件-その責任の大本（おおもと）は米輸入のノルマ優先で、輸入検査時点で殺虫剤に汚染されたり黴が生えていたりして食用に適さぬと

判明している汚染米を適切に処理しなかった農林水産省にある、消費者のことは眼中にない。あるのは省益だけだ。大本（おおもと）の役所がこんな調子だから、この汚染米を引き受けた会社でも、経済市場主義で、消費者のことなど考えていない。

これは当面一番話題になっている例を挙げてみただけで、今や日本中、いや世界中何処でもそうなのかも知れぬけれど、官民を問わず巨大組織の道徳は崩壊している。無力な一般市民はもう誰を信用していいのかわからない。信用不安の世の中である。そこに無差別殺人の様な兇悪犯罪も発生する。

【人間集団の適正規模】福澤諭吉がこう言うことを言っている—<……政府の公務にても民間の事業にても、単に事物の数理に従って正味の要人を達するは誠に容易なることにて、差したる人数を要するものにあらず。したがって費用も少なくして速やかに弁ずる筈なれども、実際は然らずして万般の施設その面倒なること筆紙に尽し難し。……これが為に余儀なく人数を増やせば又その人数を始末するが為に更に人数を増やさざるべからず。大家に多勢の人を雇ふて、為に数人の飯炊を置けば、飯炊もまた飯を食うが故に、今度は飯炊の飯炊を雇ふの必要に迫るが如し。彼の政府又は諸会社等にて、検査、調査、取締、参座、立会などいふは、いずれも右の要用に生じたることにして、その煩雑浪費推して知るべし。されば人民一個の事業においてもやはり同様の始末にして、正味の事業その事よりも、実は万般の取締向きに忙しき次第なれば、事業上に最も第一の要は信用すべき人物を得て取締の手を省くの一事にあるのみ。……世間の事業家を見るに、親子兄弟睦くして互いに隔意なく思うままに働く者に限りて大抵皆上首尾なるは、他なし。取締の面倒を免れて無益の手数と費用を省くが故なり……>

—『福翁百話』—

さて福澤諭吉がここに述べている様に、無益の手数費用を省いた効率的な運営をするには、事業を担当する組織構成員の全員が互いに情報を共有し、相互コミュニケーションが円滑に行われなければならない。そうすると円滑なコミュニケーションが可能な集団にはやはり人数の限界があるはずだ。そんなことを考えていたら、日本経済新聞連載の「経済教室」欄で大変興味のある論説を読

んだのでこれを援用させて貰う—東京大学教授西垣通氏の執筆で、英国の人類学者ロビン・ダンバー＝ Robin Ian MacDonald Dunbar ＝が唱える「百五十名が群れの上限值」という假説である—く霊長類は哺乳類のなかでも大脳新皮質がよく発達した動物だが、ダンバーはさまざまな霊長類について調査し、大脳新皮質のサイズと群れのサイズとのあいだに明確な相関関係があることをつきとめた。群れが大きくなると、個体どうしの相互コミュニケーションが複雑化し、その処理の負荷が一举に増大するので、大脳も大きくならざるをえない。ヒトの場合、大脳新皮質のサイズから計算すると、群れのサイズは百五十名が限界になるというのだ。言いかえると、われわれヒトとは、せいぜい百名程度の共同体をつくり、そのなかでコミュニケーションしあいながら生きる生物なのである。何千何万、何億の人々と一緒に共同体をつくるほどの脳は、残念ながら遺伝的に持っていないのである—

—日本経済新聞・2008・3・11—

そうだとすれば世界国家などというのは夢のまた夢だろう—国際連盟は第一次大戦後戦争の惨禍を無くそうとして結成されたはずだが、逆に二十世紀はこの大戦を上廻る戦争と動乱の世紀となった。そして第二次大戦を経て勝者同士の国際連合で平和を維持しようとしたが、その勝者同士の東西冷戦になった。それからグローバル経済の拡大に押されて冷戦が融け、世界の人的交流が自由になったと思ったら、今度はニューヨーク9・11テロ—これでまた世界は動乱とテロの乱世になってしまった。そして国民は皆基本的人権としての自由、プライバシーも放棄しなければならぬ無差別監視網に絡めとられることになってしまったのである。戦争を防ぐ為の戦争、自由を守る為の自由放棄……「みんな仲良く……」などというが、本当に仲良く平和に暮らすにはやはり群れに限界がある……

私の実際の体験に照らしても、この「150人上限値」というのが実証できる。—会社の経営でもそうだが、ロータリーの会員にしても100名を超えると必ず名前の分からぬ人が増えてくる。我が地区で最大のクラブは東京クラブだが、同じクラブの会員なのに、たまたま他のクラブから来た会員によって紹介されたりすることさえある。私の所属す

る東京東クラブも1984年の155名が上限で、それから年々減少し始め、今では70人台である。

私のガバナ一年度、1975年7月の世界の会員数は151カ国16,489クラブで774,500人、1クラブ平均56人。日本の会員数は1,276クラブ、1クラブ平均53人で、顧みてこの頃がロータリーとして一番活気があったと思われる。

現在はどうか一月ごとの細かい数字はさて置き、概略世界の会員数32,700クラブ121万人で、1クラブ平均36人。R・I・B・Iは1,840クラブ55,000人で1クラブ平均30人。日本は現在2,300クラブ、95,000人で1クラブ平均42人である。

ずっと昔、1960年代、直木・柏原両パストガバナーが会員増強問題で論争した時の日本の会員数は371クラブ15,000人で1クラブ平均40人だった。こうしてみると親密な群れの限界はやはり4～50人になるらしい。

会社経営となればなお更のことで、情報の共有とコミュニケーションの円滑化を計る為には、部署ごとに小集団に分けて管理しなければならぬ。

ロータリーについて言えば、やはり1クラブの適正規模は7～80名、100名以下を限界と考えるべきだろう。だから子クラブ、孫クラブを作ってクラブ数を増やして行ったことはいい。然しその際注意しなければならぬことは職業分類の原則を守ることである。ところが国際ロータリーはただやみくもに会員を増やすことばかりを考えて、職業奉仕の根幹になるこの原則を殆ど有名無実にしてしまった。そこからロータリーの衰退が始まったのである。

なんで職業分類の原則が大事かというと、生物の有性生殖を考えてみればいい—卵子などの生殖細胞は自分の染色体数を半分に減らすという減数分裂の仕組みで子孫を増やしてゆく。だから一卵性双生児以外は兄弟姉妹それぞれ違う遺伝情報を持って生まれるし、これがまた次の世代で違った組合せが出来てここに多様性が出来る。これが将来の環境変化に順応して種の滅亡を防ぐ知恵なのである。

これをロータリークラブに当てはめて考えれば、何故多様性のある会員構成でなければならぬか分かるだろう。職業分類の原則を守らなければ必ずロータリーは衰退する。

それはさて置き、福澤諭吉が言う様な財政の効

率化は民間企業ならすぐ納得して改善に取り組むだろうが、やはり他人の金を集めて仕事をする組織ではこれがなかなか出来ない。ひたすら組織の増殖だけを考え、役職者を増やしてゆく…

〔変質するロータリー〕前段で、国民に奉仕する為の政府が奉仕よりも自己増殖に走るという矛盾について話したが、政府自体の目的はそうであっても、それを運営する政治家や官僚はそれを職業として生活するプロである。だから当然それなりの俸給を払わなければいけない。然し職務の目的が国民に奉仕することであるからには、当然それなりの使命感・倫理観を持たねばいけないのだけれど、やはり生身の人間で生活がかかっているのだからどうしても自己保身に傾きがちである。国家危急の時には、自分自身の生活さえ脅かされるのだから、その使命感が自然に蘇るだろうが、国が豊かになって生活が安穩なら使命感など忘れられてしまう。

然し自由結社であるロータリーはどうか。ロータリーは本来職業人個人個人の社交クラブであって、ロータリーの会員という身分それ自体が職業なわけではない。ロータリーの仕事が職業として認められるのは事務職員だけである。ここまでのことは皆さん誰でも承知していることなのだが、ロータリーという組織が国際的に広がって国際ロータリーそれ自体が先頭に立って福祉活動を始めるようになってから、段々話がおかしくなってゆく……官僚化が進行して自由結社の楽しみが失われてゆく……

私がロータリーに参加した頃には、「ロータリーは奉仕団体ではない、奉仕する人の団体である」とくどい様に説かれていたし、それがまたロータリーを他の同種団体と区別する鉄則であった。私自身もこれを金科玉条として50年のロータリー生活を楽しんできた。

ところがなんと、この頃はR・Iの理事自体が「ロータリーは世界最大の奉仕団体です」などと公言するようになってしまった。どんな仕事も時代と共に変わってゆくのだから、それはまたそれで致し方ないとしても、このあたりからロータリーもまた「他人の金で奉仕するという虚構」になり、つれて金集めの為の商業化にも傾斜してゆく……（例えば国際大会・旅費支弁旅行会社指定……）挙句の果てには「人類が私たちの仕事」な

どと広言して公私混同の公金濫費をするR・I会長まで出てきた……こうして綱紀がたるんでくるとその毒素は地区レベルにまで浸潤して時に理事やガバナーまで感染する様になる―大木は頭から腐る―

商業化というのはアメリカ資本主義の特質だから、ロータリーの主導力がアメリカにある限り、R・I本部の方策がそちらに傾いてゆくのは防ぎようがない。功罪両面あるので一概には否定できないが、私などの化石人類にはなじまない。

例えば／ゴルフはイギリスで生まれ、アメリカに渡って悪くなり、日本がこれを最悪にした／ということを目にしたが、アメリカで悪くなったのは本来紳士の遊びであったゴルフで、プロゴルファーを作ってこれを職業化したこと、日本がこれを最悪にしたのは法人会員を作って社用族を育て、会員権を利殖手段にしたことだという。

運動競技の世界で最大のものは国際オリンピックで、これも商業化することによって国際的に最も華やかな祭典になったのだが、国威発揚という本来の目的と全く離れた行事になったり、スポンサーの金儲け手段になったりする。開催地のいかかわしい金の流れや、参加選手の薬物汚染が潜行して毎回問題になっている。最も極端なのは1904年アメリカセントルイスで開催されたオリンピックのマラソン選手が途中通りがかりの車に乗ってキセルをやった、という事件までである。

日本の国技とされる相撲だって本来一種の神事だったものが、国際化商業化と共にもう皆さん御承知の様にひどいものである。

そもそも祭典とか文化の伝承とかいうものは少数の恵まれた篤志家によって支えられてきたものだが、自由民主主義・市場資本主義・経済至上主義の負の面として篤志家の存在が無くなった。そのあたりからこういう悪事が噴出して来たのである。更に悪いことに、戦後日本では一方でアメリカ流民主主義経済を進めながら、一方税制では共産主義政策を採った。国民もまた金持ちを嫉妬するようになった。だからなお更高貴の義務＝Noblesse oblige＝などという観念は何処にも無くなってしまったのだと思われる。

1894年、教育家のクーベルタン男爵が国際オリンピック委員会を組織した頃の委員諸侯は開催候

補地を視察する為の旅行でも全部旅費は自弁だったという。今はもう全く逆転して相当いかがわしい金が動くと聞く……

然らば「奉仕する人の団体」であるべきロータリーではどうなのか。R・Iでは会長以下役員の出張に際してはR・I支払のクレジットカードを渡されるが、旅費規定で交通機関のファーストクラスを利用出来るのは会長、会長エレクト、元会長、財団管理委員長、現任の理事管理委員、事務総長とそれぞれの配偶者となっていて、その他はビジネスクラスかエコノミークラスである。

ここでも事務局職員に対する支弁は当然のこととして、その他の方々についてはやはりこういう区別が気にかかる—とは言うもののクーベルタンの時代とは違うのだから、それでもよかろう。しかし私が一つ疑問に思っていることだが、毎年一回ゾーン研究会があつて、日本の場合殆ど毎回会長夫妻（時に家族共々）と財団管理委員長夫妻が派遣されるが、その宿泊滞在費はすべて現地側負担になっていると聞く。この人に来て頂きたい、とこちらが頼んだ場合には当然頼んだ方がその費用を払わなければいけない。然し先方が指名して派遣したなら、指名した本部又は指名された本人が支払うべきである。付けを相手に回すのでは他人（ひと）の金で奉仕する、ということになる。

これを地区レベルまで下げて考えると、私達前後のガバナーは、その行動に要する費用をすべて自弁するか、さもなくば自分の会社で支払った。それが出来ないけれど是非ガバナーになって貰いたいと思つて懇願した人が出た場合には、その所属クラブが名誉としてこれを負担した。だからガバナーというのは「やりたがらない人にやらせるもので、やりたい人にやらせるものではない」というのが常識だったのである。つまり、ガバナーにはそれなりの権威があつたし、卓越した指導力があつたからである。ところが今や自分の懐を傷めず、実力もないのに安易にこんな榮譽が得られるのだからあれこれ問題が発生してくる。

R・I理事にしても会長にしても同様で、国際ロータリーは選挙運動を厳しく規制しているけれど、それ程厳しく規制しなければならぬ程ロータリーが歪んできているということではなからうか。あるいは人材が不足しているということかも知れぬ。奉仕という虚構である。ロータリーが個

人奉仕から団体奉仕へと変質してゆくのはこういう点にも原因がある。時代の推移に伴う宿命かも知れない。

私達日本のロータリアンにとって、最も胸の琴線に触れるロータリーの哲学は「決議23～34」だけれど、団体奉仕へと変質してゆく国際ロータリーにとってはこれが一番大きな障害になっている。だから手続要覧から削除されたり、また日本側からの抗議で復活したりしてきているが、ついに2007年11月の理事会で事務総長及びビル・サージェント元R・I副会長の連名提案として／(1)社会奉仕に関する1923年の声明が、もはや社会奉仕の理念ならびに国際ロータリーとそのクラブの原理を正確に記すものではないと判断する／(2)今後の「ロータリー章典」および「手続要覧」の改訂版からこの声明を削除するよう、事務総長に要請する／という決議案が出されることになった。日本から出ている小沢、渡辺両理事がこれを見て驚き、必死に抵抗したその経過については『ロータリーの友』2008年9月号に英文原典と共に縷々詳細に出ているのでこれを御覧頂きたい。両理事の尽力に謝意を表すが、今後『手続要覧』に掲載されるとしても、もはや Historical Document＝歴史的文書＝としてその痕跡を留めるに過ぎなくなるだろう。民主主義は多数決の原理だから衆寡敵せず、こればかりはなんともならない。

ともかく「決議23～34」は現在の国際ロータリー執行部には否定されたけれど、ロータリーは権力構造ではない。まして自由結社であるから会員の思想統制まで出来るはずもない。我々日本のロータリアンは己れの信条に基づいて我が道を行けばよいのである。

ただそうは言うものの、団体奉仕化するに従つて財団への寄附要請はますます増えてゆくだろう。寄附は強制ではない、と言うもののそれは建前であつて、近年のやり方はむしろガバナーに対する脅迫でさえある。それは国の税制と同じで悪法もまた法だからなんとか適当に折合をつけるしかあるまい。然しこれが過ぎれば行きつく先は見えている。結局墓穴を掘ることになるだろう—

—2008・9・16 於石洞山房—



ロータリーの友 *inf.* 4

ロータリーの友地区委員 中野 尚宏

ロータリーの友委員会合同会議から 11月10日今年度2回目のロータリーの友委員会（常任委員、地区委員）合同会議が開催されました。会議は、5グループに別れてロータリー情報源として「友」誌の活用法などを討議して、グループ毎に発表する形で進められました。ロータリーを理解するためにも、ロータリーを楽しむためにも「友」誌を読むことにより身近な情報源として活用できます。如何にして「友」誌を読んでもらうかは、各クラブ雑誌委員長さんに大いに期待するところです。ロータリーアンの三大義務として、会費の納入、例会出席、そして雑誌の購読があります。購読義務には、罰則規定がありません。個々のクラブ購読部数が会員数を下回っている場合は、そのクラブの国際ロータリー加盟資格が一時停止の処分を受けることがあります。2008年7月号の「友」誌購読状況調によれば地区全体では購読部数が会員数（7月1日現在）を上回っていますが、残念ながら9クラブが購読部数未達となっています。各クラブとも購読部数をクリアし情報源としてご活用下さい。

投稿記事依頼について 「ロータリーの友」の縦組みページには、「言いたい 聞きたい」「友愛の広場」「ロータリー・アット・ワーク」「俳壇 歌壇 柳壇」といった会員方々のための投稿ページがあります。クラブアピールのチャンスです。チャレンジして下さい。

また、「ロータリーの友」地区委員の担当ページの編集として「地区のたより」があります。当地区は、2009年5月号に掲載が決定しています。地区内のロータリー活動における奉仕の考え方や事例、および会員相互の親睦と融和に資するスペースを提供して、他地区の会員に地区内の情報を提供する趣旨に沿ったものですが、クラブ自慢や変わったクラブ紹介なども一案です。「地区のたより」の原稿締切りは、2月20日です。ご投稿よろしくお願い致します。

行事予定		太字：クラブ関係
1月 18日(日) 22日(木) 24日(土) 25日(日)	青少年交換委員会 千葉ハーモニープラザホール 11:00～ 国際協議会 ～25日 アメリカ・サンディエゴ WCSフィリピン視察 ～26日 青少年交換委員会ウインターキャンプ 白馬 ～25日(日)まで 第6回R財団委員会15:00～ 奨学生オリエンテーション 16:00～ 青少年女性会館	
2月 7日(土) 8日(日) 20日(金) 22日(日)	第32回RYLAセミナー 増上寺(東京都港区) ～8日 青少年交換委員会 千葉ハーモニープラザホール 11:00～ 第3回インターアクト合同会議 東天紅 15:30～ 奨学金申請説明会15:00～ 第7回R財団委員会16:00～ 青少年女性会館	

IM 日程表					
分区	リーダー	日程	時間	会場	テーマ
1	増田	2月18日(水)	15:00～20:00	ホテルオークラ東京ベイ浦安	更なる職業倫理の向上にむけて
2	鈴木	2月19日(木)	13:00～	三井ガーデンホテル船橋ららぽーと	(各クラブより提示 会長幹事会にて決定)
3A	森島	2月17日(火)	13:30～15:50	スカイウィンドウズ東天紅	クラブの活性化について
3B	鈴木	2月13日(金)	13:30～18:00	オークラ千葉ホテル	子供達に光のあたる奉仕プロジェクト
4	白鳥	2月13日(金)	13:30～18:00	かずさアカデミアホール	私の人生に於ける職業、そしてロータリー
5	山中	2月8日(日)	13:00～16:00	南房総富浦ロイヤルホテル	日本人の和の心 それを支える武士道精神で 夢をかたちに
6	杉木	2月24日(火)	12:30～15:30	プラザ平安茂原	子ども達に光のあたる奉仕プロジェクト
7	山中	2月15日(日)	14:00～18:00	キャルネ・ド・サントゥール	子供達に光のあたる奉仕プロジェクト
8	秋元	2月19日(木)	13:30～16:00	多古町コミュニティプラザ文化ホール	高校生と共に"夢をかたちに"
9	秋元	2月20日(金)	14:00～19:00	成田ビューホテル	印旛沼の水環境問題(仮題)
10	白鳥	2月18日(水)	12:30～16:30	三井ガーデンホテル柏	CHANGE the ROTARY too
11	森島	2月4日(水)	13:30～18:30	ウィシュトンホテル・ユカリ	①子供達に光のあたる奉仕プロジェクト ②職業サービス、倫理向上に対する私の考え方 ③私達のクラブ発展のための中長期計画
12	増田	2月24日(火)	13:30～15:30	森のホール21(松戸市)	私達のクラブ発展のための中長期計画
13	杉木	2月7日(土)	14:00～16:20	ナブシャルズ日本閣 南柏	私たちのクラブ発展のための中長期計画

文庫通信 (255号)

このたびは昨年度の会計報告をさせて頂きます。今後ともロータリー文庫をご活用くださるようお願い致します。

ロータリー文庫2007～2008年度会計報告

(貸借対照表)

(単位…円)

資 産		負 債	
現 金	68,512	雇用保険料預り金	8,833
普 通 預 金	5,177,135	社会保険料預り金	149,445
定 期 預 金	7,000,000	負 債 合 計	158,278
現預金合計	12,245,647	正 味 財 産	
仮 払 金	876,300	次期繰越剰余金	12,963,669
合 計	13,121,947	合 計	13,121,947

(収支計算書)

(単位…円)

収 入		支 出	
会 費 収 入	29,088,150	委 員 会 費	1,849,500
雑 収 入	272,478	業 務 費	8,600,353
		賃 貸 管 理 費	9,464,069
		人 件 費	7,623,322
		予 備 費	0
当 期 合 計	29,360,628	当 期 合 計	27,537,244
前 期 繰 越 収 支 差 額	11,140,285	当 期 収 支 差 額	1,823,384
収 入 合 計	40,500,913	次 期 繰 越 収 支 差 額	12,963,669

ロータリー文庫 〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階 TEL (03)3433-6456・FAX (03)3459-7506
<http://www.rotary-bunko.gr.jp> 開館＝午前10時～午後5時 休館＝土・日・祝祭日

寄付者紹介 (敬称略)

ロータリー財団寄付

年次寄付 (ポール・ハリス・フェロー)



国分 裕二
(船橋みなとRC)



丹羽 哲夫
(船橋みなとRC)



石井 忠之
(船橋みなとRC)



草野 進
(松戸RC)



小林 孝教
(松戸RC)



島村 俊充
(松戸RC)



深山 一郎
(成田RC)

年次寄付 (マルチプル・ポール・ハリス・フェロー)



狩野 文夫
(船橋RC)
6回目



杉浦 裕
(松戸RC)
5回目



浅沼 康男
(千葉港RC)
4回目



山田 肇
(船橋RC)
4回目



平澤 規雄
(習志野中央RC)
4回目



平田 俊光
(船橋RC)
3回目



斉藤 弘
(習志野中央RC)
3回目



安藤 勇
(銚子RC)
2回目



辻 隆之
(新千葉RC)
2回目



青木 忠茂
(船橋RC)
2回目



岩山 修久
(船橋RC)
2回目



遠藤 幸男
(船橋RC)
2回目



鹿野 正之
(船橋RC)
2回目



櫻井 忠久
(船橋RC)
2回目



佐久間富士雄
(船橋RC)
2回目



鈴木 介伸
(船橋RC)
2回目



瀧 芳文
(船橋RC)
2回目



人見 正哉
(船橋RC)
2回目



舟山 友治
(船橋RC)
2回目



松岡 忠利
(船橋RC)
2回目



三浦 晋一
(船橋RC)
2回目



森嶋 康長
(船橋RC)
2回目



山田 肇
(船橋RC)
2回目



渡辺 康
(船橋RC)
2回目



石井 博
(船橋みなとRC)
2回目



大岩 将道
(銚子RC)
1回目



加瀬 貞治
(銚子RC)
1回目



永井 幸喜
(新千葉RC)
1回目

恒久基金 (ベネファクター)



石井 賢昌
(船橋RC)
1回目



故 渡邊 隆
(習志野RC)
3回目



桐谷 祀巳
(新千葉RC)
1回目



辻 隆之
(新千葉RC)
1回目

米山記念奨学会寄付

米山功労者



永井 幸喜
(新千葉RC)
77回目



土屋 亮平
(松戸RC)
15回目



森 信一
(新千葉RC)
15回目



小泉 勝司
(松戸RC)
8回目



妻島 不三二
(柏南RC)
7回目



富田 馨
(成田RC)
7回目



中原 光男
(松戸北RC)
5回目



湯浅 紀男
(松戸東RC)
5回目



湯浅 甚作
(松戸東RC)
5回目



遠藤 幸男
(船橋RC)
4回目



山田 肇
(船橋RC)
4回目



高橋 清
(松戸北RC)
4回目



及川 喜和
(市原中央RC)
4回目



山崎 喜雄
(千葉港RC)
4回目



越田 光子
(船橋みなとRC)
3回目



平澤 規雄
(習志野中央RC)
3回目



布施 国雄
(習志野中央RC)
2回目



米澤 征一郎
(市原中央RC)
2回目



斉藤 重久
(松戸RC)
2回目



草野 進
(松戸RC)
2回目



久保木 一三
(佐原RC)
1回目



森田 雅久
(松戸RC)
1回目



平野 豊
(松戸東RC)
1回目



岡本 克己
(松戸東RC)
1回目



三好 啓仁
(新千葉RC)
1回目



高本 拓司
(沼南RC)
1回目



清宮 佳一
(沼南RC)
1回目



吉田 恵次
(沼南RC)
1回目

新ロータリアン (敬称略)



佐藤 尚文
(柏西RC)
コンビニエンスストア
6月27日入会



梅崎 建輔
(習志野中央RC)
航空アドバイザー
9月1日入会



関 力
(流山中央RC)
サービス業
10月7日入会



新妻 信介
(船橋RC)
証券引受
11月4日入会



野田 晴己
(市原中央RC)
水道工事業(管工業)
11月4日入会



小西 安彦
(館山RC)
内装工事
11月19日入会



茂田 廣
(木更津RC)
農業協同組合
11月20日入会



鮫島 永一
(千葉南RC)
空調設備
12月5日入会

R. I. 第2790地区（千葉）2008年11月出席・会員数報告

分区	クラブ名	出席率 %	例会数	会員数				
				7/1	女	当月	女	増減
第1分区	市川川	100.00	4	50	0	51	0	1
	市川東	100.00	4	48	2	48	2	0
	市川南	64.30	4	21	2	20	2	-1
	市川浦安	93.00	4	48	0	48	0	0
	市川シビック	79.04	2	38	0	37	0	-1
第2分区	船橋西	97.29	4	26	0	28	0	2
	船橋東	90.35	4	48	4	47	4	-1
	鎌ヶ谷	80.68	4	27	2	27	2	0
	船橋南	88.71	4	33	3	35	3	2
	船橋みなと	85.40	4	26	3	27	3	1
第3分区A	千葉	85.94	2	70	0	74	0	4
	新千葉	87.51	4	49	0	49	0	0
	千葉西	88.75	4	51	5	52	5	1
	千葉中央	83.34	4	38	0	37	0	-1
	千葉幕張	89.85	4	32	3	35	3	3
	千葉東	65.00	2	31	4	33	4	2
第3分区B	千葉若潮	79.95	4	35	0	37	0	2
	千葉南	80.95	4	44	5	45	5	1
	市原	82.14	4	49	4	49	4	0
	千葉港	76.92	4	26	0	29	0	3
	市原中央	81.30	4	47	1	49	1	2
第4分区	千葉北	81.25	4	27	1	26	1	-1
	千葉緑	70.37	4	27	2	27	2	0
	木更津	90.47	4	43	3	45	3	2
	上総	70.52	5	20	0	19	0	-1
	富津	85.01	4	21	1	22	1	1
	富津中央	85.53	4	18	0	19	0	1
	木更津東	87.87	4	38	0	41	0	3
	君津	95.12	2	43	2	46	2	3
第5分区	袖ヶ浦	94.00	2	24	2	26	2	2
	富津シティ	73.00	4	20	0	19	0	-1
	館山	89.44	4	51	4	59	4	8
	鴨川	85.90	3	23	2	24	2	1
	勝浦	86.83	4	43	4	43	4	0
	千倉	88.90	3	19	0	18	0	-1
第6分区	鋸南	86.70	4	15	1	15	1	0
	館山ベイ	67.86	4	19	0	22	0	3
	茂原	83.18	4	65	2	65	2	0
	東金	80.00	4	33	0	35	0	2
第6分区	大原	89.00	4	16	0	16	1	0
	大多喜	88.75	4	18	2	18	2	0

分区	クラブ名	出席率 %	例会数	会員数				
				7/1	女	当月	女	増減
第6分区	横芝	97.80	3	42	0	46	0	4
	茂原東	82.26	4	32	3	31	3	-1
	茂原中央	86.46	4	26	4	26	4	0
	大網	72.22	3	31	2	30	2	-1
第7分区	東金ビュー	71.40	4	27	1	28	1	1
	銚子	87.50	4	48	1	46	1	-2
	旭	80.00	4	49	0	48	0	-1
第8分区	八日市場	82.78	4	38	0	39	0	1
	銚子東	89.66	4	39	0	38	0	-1
第9分区	佐原	78.98	4	50	0	49	0	-1
	多古	76.90	4	19	0	23	0	4
	小見川	88.39	4	27	0	27	0	0
第9分区	佐原香取	90.40	2	23	0	25	0	2
	成田	97.50	4	58	0	61	0	3
	八街	89.52	4	37	2	36	2	-1
	印西	84.67	4	31	0	31	0	0
	白井	86.00	2	17	0	18	0	1
	富里	71.00	4	28	0	30	1	2
第10分区	成田コスモポリタン	74.57	4	57	0	58	0	1
	柏	71.50	4	38	7	39	7	1
	我孫子	80.60	4	26	0	27	0	1
	柏西	81.35	4	53	2	55	3	2
第11分区	沼南	72.61	4	22	1	24	1	2
	柏南	83.60	4	31	3	31	3	0
	習志野	70.01	4	39	2	40	2	1
	八千代	84.00	4	47	0	47	0	0
	佐倉	67.86	4	14	3	14	3	0
	八千代中央	69.20	4	30	0	30	0	0
	四街道	81.28	4	24	3	24	3	0
	習志野中央	82.50	4	37	4	40	5	3
第12分区	佐倉中央	70.83	4	16	2	18	2	2
	松戸	85.62	4	47	0	48	0	1
	松戸東	92.17	4	51	0	53	0	2
	松戸北	86.00	4	40	0	42	0	2
	松戸中央	72.22	4	43	3	51	3	8
第13分区	松戸西	82.29	4	24	0	24	0	0
	野田	80.85	2	48	5	47	5	-1
	流山	73.92	4	21	3	24	3	3
	野田東	90.04	4	34	0	33	0	-1
第13分区	流山中央	81.03	4	26	2	27	2	1
	野田セントラル	82.30	4	30	0	30	0	0

クラブ数 83RC	2008年7月1日地区会員数	2,870人	当月平均出席率	82.72%
	2008年11月末日地区会員数	2,951人	増減	+ 81
	2008年7月1日地区女性会員数	124人	女性会員増減	+ 4
	2008年11月末日地区女性会員数	128人		

物故会員 (敬称略)



小林 新男 (佐原RC)
 逝去日：2008年11月10日 (享年85歳)
 入会日：1981年3月12日
 ローターリー暦
 1987年 クラブ幹事
 マルチプルボールハリスフェロー
 米山功労者



長谷川芳道 (小見川RC)
 逝去日：2008年11月14日 (享年84歳)
 入会日：1972年4月
 ローターリー暦
 1977-78年 幹事
 1985-86年 会長
 1994-95年 歴代分区代理
 1992-93年 ボールハリスフェロー
 1998-99年 マルチプルボールハリスフェロー
 2000-01年 準米山功労者

1月のロータリーレート

88円

夢をかたちに



2008-09年度国際ロータリー会長

李 東建 (D.K.Lee)

会員目標

2009年3月31日までに1名の会員増強を達成する
{推奨目標：10%の会員増強}



2008-09年度国際ロータリー第2790地区ガバナー

崎山 征雄

ロータリーの心と原点を今見つめなおして
「招き猫」に託す会員増強の願い

ガバナー事務所

〒275-0011 習志野市大久保4-3-8

TEL 047-477-2401 FAX 047-477-2407

Email 08-09gov@rid2790.jp